

国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学

【文部科学省B P 認定・履修証明プログラム】

PAL 育成講座（生産システムアーキテクト・リーダー育成プログラム）

令和8年度 募集要項 Ver. 1.03

申込受付期間： 令和8年9月4日（金）まで

受講資格審査面接： 必要な受講者には個別に連絡します。

受講者発表： E-mailにて事前に連絡します。

受講期間： 令和8年10月 ～ 令和9年2月
詳細は8ページの科目表を参照してください。

対面授業場所： 岐阜大学航空宇宙生産技術開発センター

PAL育成講座の受講生は、岐阜大学の科目等履修生として大学アカウントが付与されます。受講生所属企業には「特別枠」が付与され、他従業員も利用できます。詳細は次ページ参照。修了者には履修証明書・認定証書を学長名にて交付します。また大学院4単位が得られます。

令和8年6月29日（月）（初版Ver. 1.01 令和8年5月25日）

主催： 航空宇宙生産技術開発センター


共催： 岐阜大学高等研究院社会実装研究コア

PAL育成講座 と PAL短期集中コース

PAL育成講座： 座学・演習・討論・実習・発表からなる「製造業」総合講座（必須66.5時間、選択含96時間）

PAL育成講座受講生の所属企業は「特別枠」が付与され、他の従業員も利用できます。

PAL短期集中コース： PAL育成講座 座学科目の中から 好みの個別科目を1科目毎に申込・受講できる講座

募集カテゴリー	受講枠	受講料	後日録画視聴	PAL業務改善 展示会参加	修了証書 単位	
PAL育成講座 受講生所属企業 「特別枠」	 岐阜大学 PAL 育成講座 <small>Brush up Program for professional</small> 【定員 15名】	全科目 (96時間) 大学IDで受講 座学・演習 実習・発表	25万円/人 岐阜県減免 12.5万円/人	○	○	○ 学長名で交付 修了証書 大学院単位
	PAL短期集中コース 「特別枠」 【定員無】	座学11科目まで	無料	○	○	×
一般企業 「一般枠」	PAL短期集中コース 「一般枠」 【定員無】	座学5科目まで	無料	×	○	×

メタバース空間で開催する「PAL業務改善展示会」

日程：R9年2月予定

企業間で語ろう、学生と語ろう！！ 企業の業務改善成功体験（我社の改善事例、会社紹介、我社の未来）



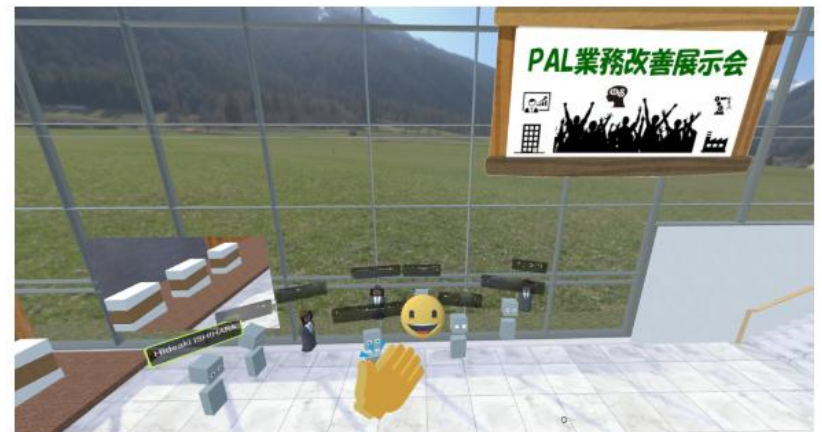
航空宇宙生産技術開発センター外観



展示会場ブースの様子



資料を展示説明する様子



展示会説明員の集合写真

1. P A L 育成講座（生産システムアーキテクト・リーダー育成プログラム）の目的と意義

日本の国力を担う中堅・中小「製造業」は、21世紀の業容変革をリードできる優秀な若手育成が求められています。そこで、東海地方とりわけ岐阜県製造業の、30歳前後 原則大卒以上の**若手リーダー**、将来の**幹部候補**を対象に、以下を養成すべく本プログラムを開講します。

- ① 俯瞰的な視野で実務を推進できる能力 ② 将来構想を立案できる能力

2. プログラムの概要と科目構成

座学・討論・実習を通じた総合的・実践的な学びにより、第4次産業革命時代のリーダーとしての能力を養います。必須科目と自由選択科目を含む総時間数は96時間、必須科目は66.5時間です。後期の10月～2月開講。

- 座学** : **経営、コスト、D X（コンピュータ、IoT、人工知能）**
 : **（選択科目）航空機生産技術に特化した講義**
- 演習・実習・グループワーク** : **経営・コスト・D X、自動組立、大量生産の無駄取り などの演習と実習**
 : **（選択科目）産業用ロボット特別教育【修了証交付】、リレーシークス実習**
- 課題発表・討論** : **自分の未来産業ビジョンを形成して発表**

3. 社会人リカレントプログラムとしての認定や指定

岐阜大学履修証明プログラム、文科省職業実践力育成プログラム（B P）認定、厚労省教育訓練給付制度指定

履修証明プログラムとは

平成 19 年の学校教育法の改正により、大学等における「履修証明制度」が創設されました。大学等において、通常の学生を対象とする学位プログラムに加え、社会人等の学生以外の者を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書を交付できることになりました。各大学等において、社会人等の多様なニーズに応じた様々な分野の学習機会が積極的に提供されることが期待されています。

4. 募集人数

- ・15人（岐阜大学航空宇宙生産技術開発センターでの対面受講の人数）

5. 受講料

- ・25万円

（岐阜県に事業所を設置している企業の勤務者は、受講料の半額が減免され 12.5万円 となります。）

・厚生労働省の教育訓練給付制度（特定一般教育訓練）の対象講座として指定されています。一定の条件を満たす場合、受講料の最大50%（上限25万円）の給付を受けることが可能です。受給要件や手続きの詳細については、最寄りのハローワーク又は本プログラム事務局までお問い合わせください。なお、給付を受けるためには、受講開始前に所定の手続きが必要となりますので、ご注意ください。

6. 受講申請資格

岐阜大学大学院自然科学技術研究科の履修証明プログラムとして実施されるため、申請者は下記の①～⑧のいずれかに該当する必要があります。

①日本の大学を卒業した者

②学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

③外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る）

を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

⑥専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

⑦文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）

⑧短期大学、高等専門学校、高等学校、専修学校及び各種学校等を卒業した技術者で、本研究科において、個別の受講資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

※⑧に該当する申請者については、別途、資格審査（面接）を実施します。面接時間等は個別に連絡します。

7. 受講申込手続

- (1) 申込期間 令和8年9月4日（金）まで
 (2) 受講申込方法 申込期限までに必要書類を指定の方法で提出してください。
 (3) 提出物

必ず提出する書類		
提出物	注意事項	提出方法
①-1受講申込書(Excel)	写真データ貼付のこと。写真は3ヶ月以内撮影・上半身・無帽・正面向きのものとしてください。	メールにてご提出ください。 ※添付ファイルはパスワード付としてください。
①-2受講申込書(PDF)	①-1の押印版	
②写真	①-1に貼付する元データ	
③類型該当生の自己申告書(word)	—	
④最終出身学校の卒業（修了）証明書	学位記の写しは不可。	郵送または上記メールに添付
受講料の減免を希望する方のみ		
⑤岐阜県在籍企業であることを証明する書類、岐阜県在籍企業に勤務していることを証明する書類	様式任意	上記メールに添付

- (4) 申込先 〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学航空宇宙生産技術開発センター
 生産システムアーキテクト・リーダー育成プログラム事務局
 E-mail: ipteca-recurrent@t.gifu-u.ac.jp

- (5) 受付結果 本人宛にE-mailで連絡します。面接が必要な場合はオンラインで行います。

8. 個人情報の取扱い

提出された申請書等に記載された氏名、性別、生年月日、住所、電話番号等の個人情報は、審査システムに登録されますが、申請書等及び登録された個人情報は、岐阜大学工学部、航空宇宙生産技術開発センターが責任を持って管理します。受講資格審査終了後は、この個人情報を次のいずれかに該当する場合を除いて利用することはなく、第三者に開示することはありません。①合格者について、受講手続に必要なデータを使用する場合、②受講者について、カリキュラム登録、成績管理等、本人が受講するうえで必要な事務にデータを使用する場合、③受講者選抜に係る統計・調査・分析のために使用する場合（ただし、この統計・調査・分析に従事する者は特定の者とし、公表する場合、個人識別ができない状態で行います）

9. 問い合わせ先

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学航空宇宙生産技術開発センター
生産システムアーキテクト・リーダー育成プログラム事務局
E-mail: ipteca-recurrent@t.gifu-u.ac.jp

[社会人向け教育プログラム（リカレント教育プログラム） - 航空宇宙生産技術開発センター | 東海国立大学機構 \(gifu-u.ac.jp\)](#)

分類	科目名	① 注3参照	② 注3参照	③ 注3参照	④ 注3参照	授業の形式	日程	講師氏名（現在の所属）【実務家としてのバックボーン形成企業】	時間数（h）	狙い
必修	導入ガイダンス	○				対面 + オンライン	10月1日(木)10:30-12:00	石原秀昭（センター特任教授）【元 デンソー】 田村純一（川崎重工業）【川崎重工業】	1.5	講座説明： カリキュラム全体を概観し、注意点や学習ポイントを説明して動機付けする。 講和： 「航空機体の生産技術」を受講し、製造業の生産技術とは何かについて、その勘所を理解する。
必修	経営の基礎		○			対面 + オンライン	12月10日(木) 13:00-14:30 12月10日(木) 14:45-16:15	伊藤義人（ビジネス・ローンチアウト）【元 デンソー】 石原秀昭（センター特任教授）【元 デンソー】	3	前編： 経営とは何か、その本質について学ぶ。 後編： 業界（航空・自動車・電気）を俯瞰しつつ、リーダーとして体得してほしい経営の勘所を学ぶ。
必修	コストの基礎		○			対面 + オンライン	12月10日(木) 10:30-12:00	皆川一二（ツツテクノ）【元 デンソー】	1.5	製造業におけるコストと原価の基礎について体系的に学ぶ。
必修	品質の基礎			○		対面 + オンライン	10月29日(木) 13:00-16:15	斎藤 隆重（ビズ・アシスト・エンジニア）【元 デンソー】	3	製造業における 経営からみた品質マネジメントの本質について学ぶ。
必修	製造業DX： コンピュータ		○			対面 + オンライン	12月10日(木) 16:30-18:00	石原秀昭（センター特任教授）【元 デンソー】	1.5	製造業を変革するDXとして、コンピュータの基礎から応用について学ぶ。
必修	製造業DX： IoT		○			対面 + オンライン	12月24日(木) 10:30-12:00	松下 光次郎（岐阜大学工学部教授）	1.5	製造業を変革するDXとして、製造におけるIoT, Cyber-Physical Systems, Digital Twin について体系的に学ぶ。
必修	製造業DX： 人工知能		○			対面 + オンライン	12月24日(木) 13:00-18:00	小野田 崇（西山学院大学理工学部教授） 原 武史（岐阜大学工学部教授）	4.5	前編： 製造業を変革するDXとして、製造における人工知能（製造業における機械学習）を学ぶ。 後編： 製造業を変革するDXとして、製造における人工知能（深層学習の基礎、深層学習を使った応用）を学ぶ。
必修	経営・コスト演習 模型飛行機自動組立実習			○		対面 + オンライン （グループワーク・演習・実習）	10月29日(木) 9:30-17:00 11月 5日(木) 9:30-17:00 11月12日(木) 9:30-17:00 11月19日(木) 9:30-17:00 11月26日(木) 9:30-17:00 12月 3日(木) 9:30-17:00	平工忠史（センター特任准教授）【川崎重工業】	36	「経営・コスト演習」「模型飛行機自動組立実習」を通じて、製造コストと投資回収、工程設計を学ぶ。
必修	リーン生産方式概論 リーンオートメーション			○		対面 + オンライン （討論・演習）	1月21日(木) 15:30-18:00 1月28日(木) 10:30-18:00	小川俊貴（センター長）【元 東海理化】 原田 浩史（R&J）【元 デンソー】 横瀬 健心（デンソー）【デンソー】	8.5	自動車産業などの大量生産を学ぶ。「リーン生産方式概論」「リーンオートメーション」を通じ、トヨタ生産方式に代表される大量生産方式の勘所を、座学、デモ、演習で体感します。
必修	DX演習			○		対面 + オンライン （演習）	1月21日(木) 13:00-15:30	三宅 英治（エヌテック）【エヌテック】	2.5	DXの勘所についてデモと演習で学ぶ。日報アプリ、RPA：Robotic Process Automation、生成AIなどのデジタル技術をピックアップして題材とする。
自由選択	航空機開発の流れ				○	対面 + オンライン	1月14日(木) 10:30-12:00	西田 大輔（川崎重工業）【川崎重工業】	1.5	航空機開発の全容（設計、生産、品質保証）を概観する。
自由選択	航空機生産概論				○	対面 + オンライン	1月14日(木) 13:00-18:00	斎井 昭仁（センター特任教授）【川崎重工業】	4.5	生産技術者が知っておくべき常識を学ぶ。 AS9100品質保証、生産計画と管理、部品加工概要、複合材料特論、検査技術
自由選択	航空機装備品の生産技術				○	対面 + オンライン	12月17日(木) 14:45-18:00	玉田 真仁（ナブテスコ）【ナブテスコ】 福井 淳（ナブテスコ）【ナブテスコ】	3	航空機の装備品製造における現状の課題や将来展開について学ぶ。 フライトコントロールシステムの基礎である油圧アクチュエータについて学ぶ。
自由選択	製品の設計思想				○	対面 + オンライン	12月17日(木) 10:30-14:30	川添博光（センター非常勤講師）【元 豊田中央研究所、名大、鳥取大】	3	移動手段が異なる「航空機」と「自動車」を例として、空気力学の観点から、その形状に至る必然性、設計思想の違いを学ぶ。
自由選択	産業用ロボット特別教育	○				対面 （実習）	10月1日(木)13:00-17:30 10月8日(木) 9:30-17:00	八田祐之（岐阜大学工学部助教）	11	産業用ロボットに関する業務を行う生産技術者が学ぶべきロボット操作の技術を習得する。 修了者には、「産業用ロボットの教示等の業務に係る特別教育」の修了証を交付する。
自由選択	リレーシークス実習	○				対面 （実習）	10月22日(木) 9:30-17:00	上木 論（岐阜大学工学部准教授）	6.5	生産技術者が学んでおくべき基礎として、自動化装置で一般に用いられるリレーシークスおよびプログラマブルロジックコントローラ（Programmable Logic Controller, PLC）の基礎を実習する。
必修	未来産業ビジョン形成 （修了発表会）	○				対面 （修了発表・討論）	受講生上司が参加講師予定。 上司都合を調整して日程決定。 （仮）2月11日(木)13:00-16:15 （仮）2月18日(木)13:00-16:15 （仮）2月25日(木)13:00-16:15	石原秀昭（センター特任教授）【元 デンソー】	3	学んだ座学や実習、及び自分のポジションや経験を繋ぎ合わせて、10～15年後の日本の産業界の姿を予測し、社会人リーダーとしてのビジョンをまとめて討論・発表する。PAL育成講座の修了発表会に該当する。
	必須時間数								66.5	
	総時間数								96	

(注1) センターとは、岐阜大学 航空宇宙生産技術開発センターを指します。対面授業は、センター内のセミナー・エリアで行います。

(注2) 「必修科目」を受講・合格して修了要件を満たした人は、岐阜大学長名で「履修証明書」「認定証書」が交付されます。

(注3) 「履修証明書」「認定証書」に加え、必須科目②③を受講して合格すると3単位、自由選択科目も含めて②③④を受講して合格すると4単位の岐阜大学大学院の単位が得られます。

①：単位と無関係な科目であるが、「導入ガイダンス」（必須科目 初日）、「未来産業ビジョン形成」（必須科目 最終日）の受講・合格が修了要件に必要です。

また、希望者は、自由選択科目として、産業用ロボット特別教育（「産業用ロボットの教示等の業務に係る特別教育」の修了証を交付）、「リレーシークス実習」を受講することができます。

②：「生産技術特論」（必須科目 1単位12時間）；製造業の生産技術リーダーが学んでほしい基礎・常識を学ぶ。

③：「製造技術特論」（必須科目 2単位50時間）；製造業の生産技術リーダーが体得してほしい勘所を、討論・グループワーク・演習・実習で学ぶ。

④：「特別講義」（自由選択科目 1単位12時間）；特に航空宇宙産業の生産技術リーダーが学んでほしい基礎・常識を学ぶ。一科目毎に自由選択可能で、自動車産業などの大量生産系の受講生にも推奨。

(注4) 対面参加が出来ない場合は、オンライン参加可能です。オンラインはTeamsを使用します。

「経営・コスト演習、模型飛行機自動組立実習」（必須科目）はグループワークを行います。なるべく対面参加を推奨しますが、オンライン参加やVR活用も可能です。

「未来産業ビジョン形成」（必須科目 最終日）は、講座の修了発表会となり、必ず対面参加してください。

(注5) 講師の都合により日程が変更になる場合があります。

(注6) 業務都合で欠席した社会人受講生には、講座最終日（2月下旬）までに、録画を活用したオンデマンド受講その他の補講を行い、講座修了までサポートいたします。

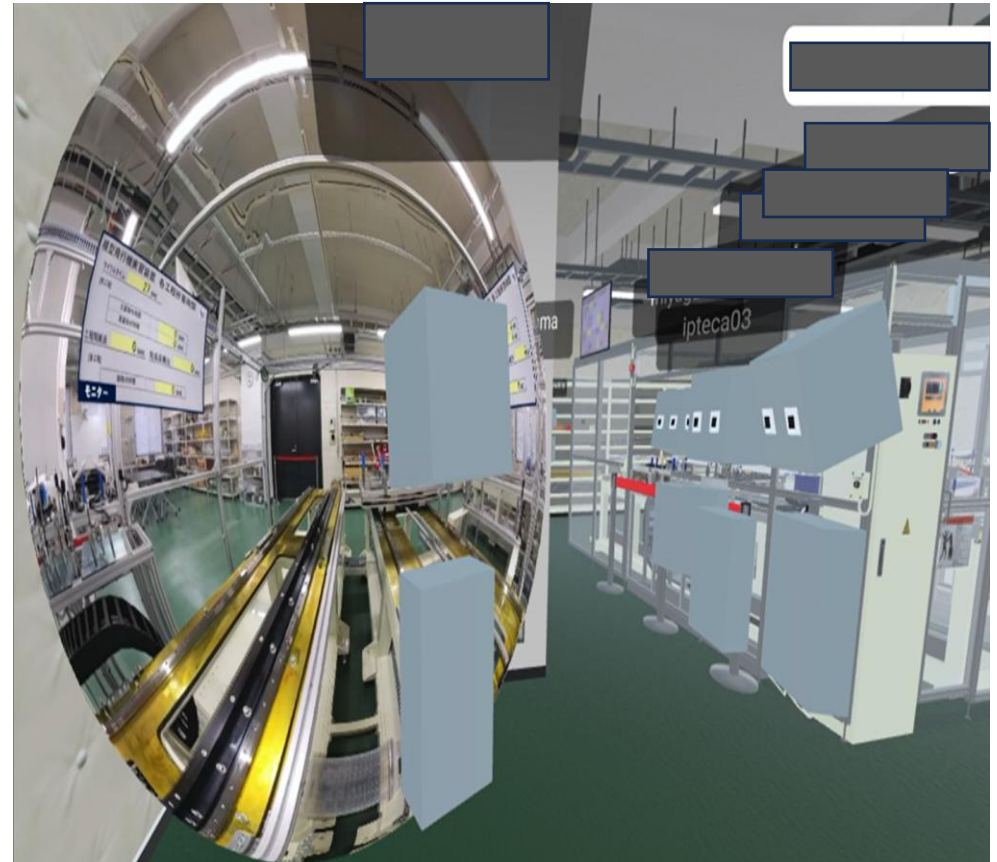
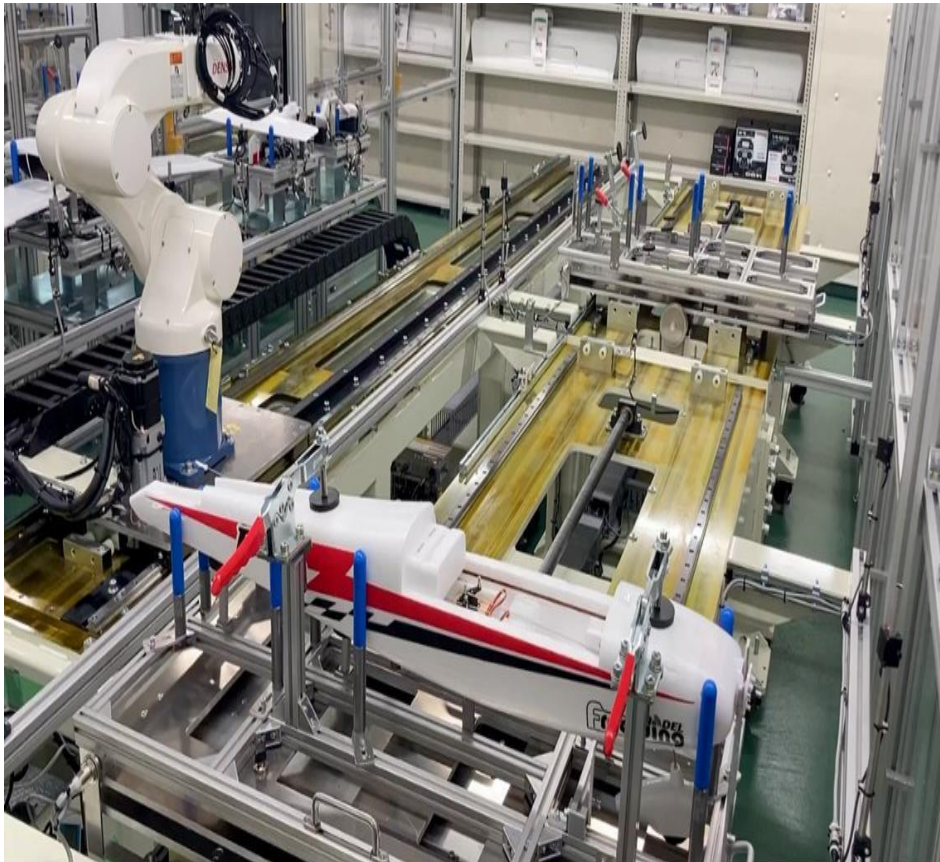
成績評価の方法（合格基準）と 受講効果の把握

科目名	成績評価の方法（合格基準）
導入ガイダンス	課題レポートによる評価。課題レポートが100点満点で60点以上を合格とする。
経営の基礎	課題レポートによる評価。課題レポートが100点満点で60点以上を合格とする。
コストの基礎	課題レポートによる評価。課題レポートが100点満点で60点以上を合格とする。
製造業DX：コンピュータ	課題レポートによる評価。課題レポートが100点満点で60点以上を合格とする。
製造業DX：IoT	課題レポートによる評価。課題レポートが100点満点で60点以上を合格とする。
製造業DX：人工知能	課題レポートによる評価。課題レポートが100点満点で60点以上を合格とする。
経営・コスト演習、模型飛行機自動組立実習、品質の基礎、リーン生産方式概論、リーンオートメーション、DX演習	課題に対するレポート、グループワークへの取り組み状況、発表会の内容から総合的に判断する。総合評価が100点満点で60点以上を合格とする。
航空機開発の流れ	課題レポートによる評価。課題レポートが100点満点で60点以上を合格とする。
航空機生産概論	課題レポートによる評価。課題レポートが100点満点で60点以上を合格とする。
航空機装備品の生産技術	課題レポートによる評価。課題レポートが100点満点で60点以上を合格とする。
製品の設計思想	課題レポートによる評価。課題レポートが100点満点で60点以上を合格とする。
産業用ロボット特別教育	座学と実習を含む総合評価で、「産業用ロボットの教示等の業務に係る特別教育」の修了資格取得要件を満たすこと。総合評価が100点満点で60点以上を合格とする。
リレーシーケンス実習	座学と実習を含めた総合評価が100点満点で60点以上を合格とする。
未来産業ビジョン形成	討論・ビジョン発表を評価する。講座の修了発表に該当する。 100点満点で60点以上を合格とする。

受講効果の把握のため、受講生と所属企業管理層に対し、アンケートを実施する。

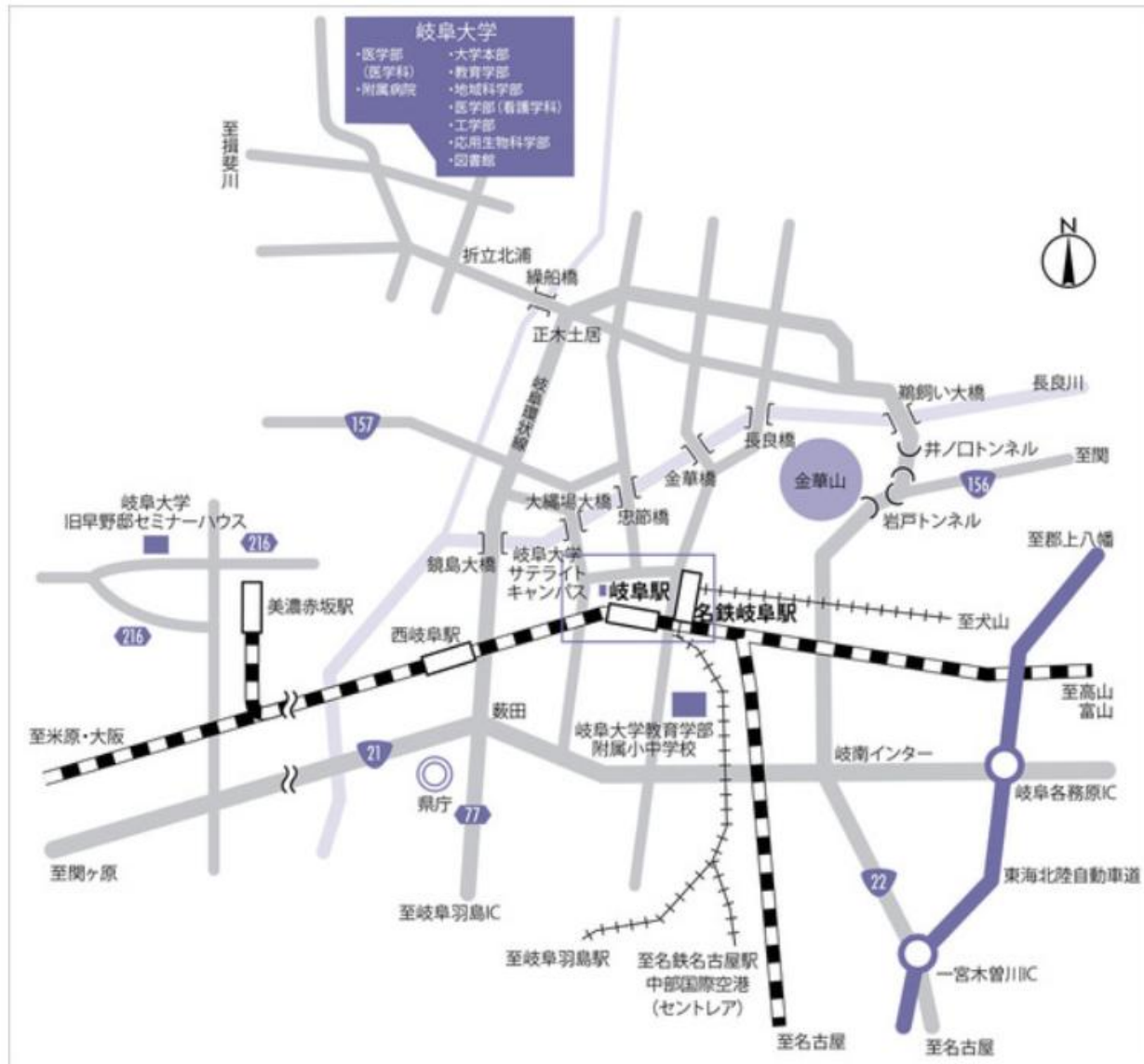
経営・コスト演習、模型飛行機自動組立実習、VRを活用した学び

- コストシミュレーションを通じて、経営視点を交えた製造コストと投資回収を学ぶ
- 模型飛行機自動組立ライン実習（VRによる遠隔学習も可能）により、工程設計を学ぶ
- 社会人・学生混成グループによる多方向討論や協同作業



会場アクセス

交通アクセス | 国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学 (gifu-u.ac.jp)



会場アクセス

